

# 南房総市白浜地域に広がる農業

・・・農業生産法人も参入している白浜の農地・・・



早春の白浜中央地区

南房総国定公園・野島埼灯台、手前・白浜中央地区 1月撮影

地域開発関連整備事業（秩序形成）  
白浜中央地区（南房総市）

安房農林振興センター

## 1 南房総市の概要

南房総市は房総半島の最南端に位置し、三方を海に囲まれた温暖な地域で、総面積は230km<sup>2</sup>で世帯数17,116戸、人口は43,653人(H22.2.1現在)です。農地面積は3,610haで市の面積の15.7%となっています。東京から本市へは、東京湾アクアライン、富津館山道・富浦ICの利用ができ1時間半ほどで到着します。

### 南房総市の主な観光名所

- とみさん  
富山道道の駅・とみうら  
枇杷倶楽部・・・千葉県初の「道の駅」富浦地区は房州びわ・献上枇杷の産地
- 道の駅ふらり富楽里とみやま・・・富山産の花・野菜・果物、魚介類販売  
(富津館山道ハイウェイオアシス富楽里直結)
- ローズマリー公園・・・風車とローズマリーの里 シェイクスピア・カントリーパーク
- たかべ  
高家神社・・・庖丁式の奉納が行なわれる日本唯一の神社
- 千倉の花畑・・・海を眺めながらの花摘み
- 道の駅ちくら・潮風王国・・・花々の中にある「道の駅」海産物の販売
- 野島埼灯台・・・房総半島最南端白浜町野島埼に立つ灯台
- 海水浴、サーフィン、釣り・東京湾、太平洋側の各地海水浴場や釣場

#### (1) 南房総市の農業

農家数4,295戸、専業農家907戸、兼業農家は3,388戸で農業従事者は7,245人で、耕地面積は3,610haで一戸あたりの耕地面積は0.84haです。また、白浜中央地区事業実施後の整地面積は45.3haで、農家戸数は558戸であり一戸当りの平均耕地面積は0.08haです。(平成21年度安房農林振興センター資料)

白浜中央地区は、房総半島最南端みなみほうそうししらはまちょうの南房総市白浜町で、南は太平洋、北は山を背に館山市と接し、房総沖の黒潮の影響を受け年平均気温16℃と冬季は温暖な気候となっています。

白浜中央地区の西側には用水源である二級河川長尾川があり、南側には国道410号線が通り、海岸線は南房総国定公園となっている地域です。冬季は温暖な気候のため、12月から露地花が咲き始め1～2月には収穫の最盛期を迎え、市場へ出荷する他にも直売等がされており、多くの花摘み客でにぎわいます。



房総半島最南端野島埼灯台 1月撮影  
(南房総国定公園・南房総市白浜町)



1 2月より出荷が始まる露地花 2月撮影  
キンセンカ、ストック (白浜中央)



めがね橋 (千葉県指定有形文化財・南房総市白浜町) 2月撮影



## 2 導入された事業の概要

ほ場整備事業を実施することにより、農業生産基盤の改善と農業経営の合理化を図るため、平成6年度から事業が着工され、用水は、県営かんがい排水事業（一般）で整備された白浜中央地区に隣接する長尾川の用水を利用することになりました。

事業の実施区域は、野島埼灯台の東西に広がる田畑です。

事業実施後は、狭い道路あるいは田越しの水利用等の不便な状況が一新され、花卉やそらまめ等の野菜が地区一面広がることを目指しました。いまでは白浜城址展望台から実施地区を眺めると、四角い絨毯を敷き詰めたような素晴らしい景色を見ることができます。(表紙撮影場所)

地域開発関連整備事業(秩序形成) 白浜中央地区

採択年度 平成6年度  
事業期間 平成6年度～平成20年度  
受益面積 45.3ha (田36.6ha、8.7ha)  
総事業費 1,650,000千円  
負担割合 国45%、県35%、市10%、地元10%

主要工事

整地工 45.3ha  
用水路工 16.2km  
用水施設 用水機場4箇所  
排水路工 14.7km  
道路工 15.4km  
暗渠排水工 23.4ha



キンセンカの定植

10月撮影



市場出荷用キンセンカの収穫

1月撮影



1月撮影







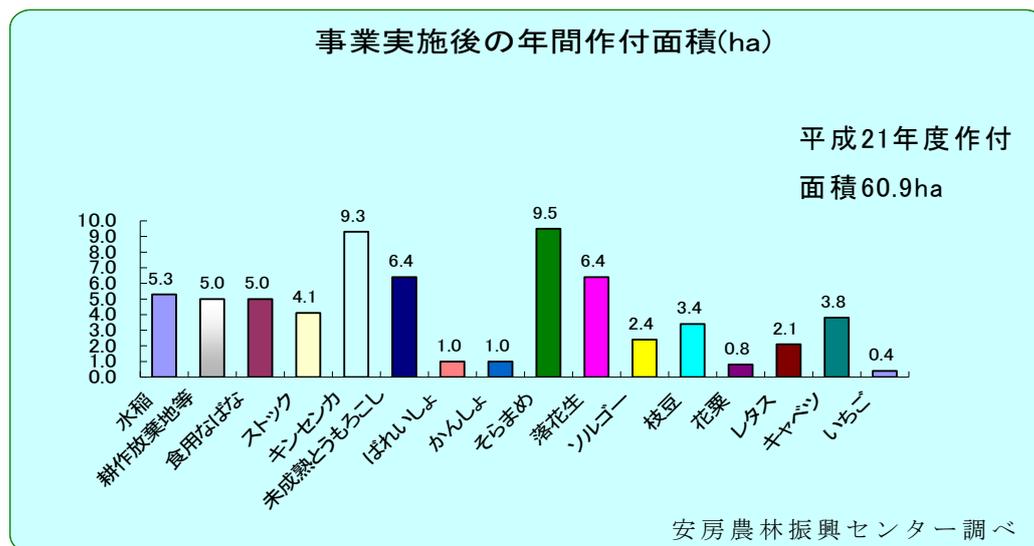
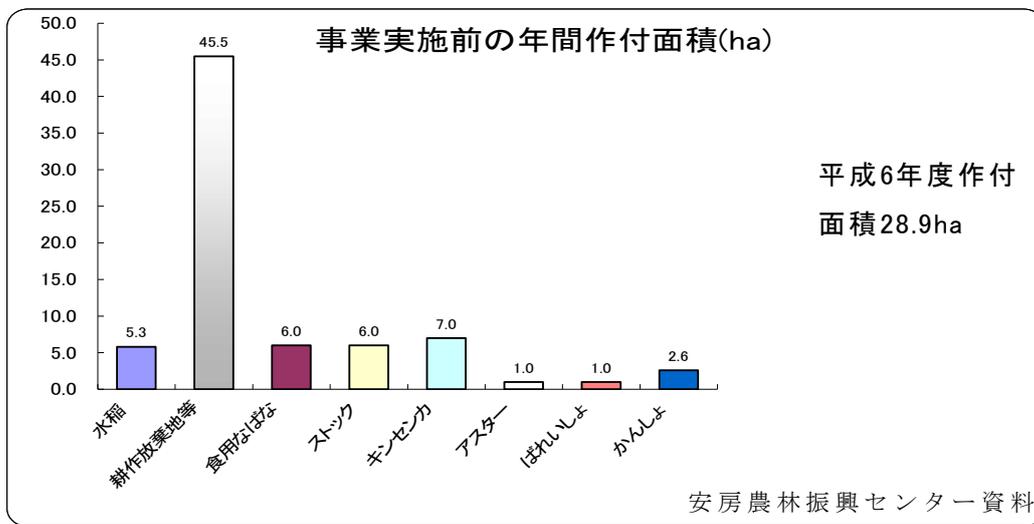
### 3 事業の成果

#### (1) 作付け状況

事業実施により、未整備湿田は整形田に整備され、あわせて用排水路、道路も整備されました。このことにより、農作業の効率化が図られ、花、野菜の栽培が多く行なわれるようになりました。また、農業生産法人の参入による野菜の作付けが積極的に行なわれています。

地区全体での年間作付面積は、事業実施前が28.9ha、事業実施後は60.9haとなり、耕作放棄地の解消も進んでいます。

主な作付品目は、花卉類14.2ha、そら豆9.5ha、落花生6.4ha、とうもろこし6.4ha、レタス・キャベツ5.9ha、食用なばな5.0haとなっております。(H21年度)



## (2) 農業生産法人の参入経緯

旧白浜地域では、市が事業主体として行なっている農地保有合理化事業(農業経営の規模拡大、農地の集団化その他農地保有化の合理化を促進する等効果的かつ安定的な農業経営の育成を図るための事業)で、市が所有者から農地を借り受け、中間保有を行い、農地を借りたい農家等に貸し出すことを中心に行なっています。

一般的には農地の貸し借りは、農地所有者と借り受け者との間で行なわれますが、貸し借りに不安をもつ地権者もいますので、市が所有者と借り手の間に入るため、安心して農地を貸すことができます。

先行着手した長尾地区の県営ほ場整備事業(平成3年度着手)実施に当たり、事業に参加したいが、高齢や後継者がいないため、農業経営規模を縮小したい意向を持つ農家が多いことがわかりました。

そこで、旧白浜地域において高齢者にやさしい農業の方法を検討したところ、耕作者のいない優良農地は旧白浜町が借り受け、農地を借り入れる農家等が現れるまでの間、旧白浜町が農地の保全管理を行うということが農地保有合理化を事業化した経緯です。

平成5年4月に「白浜町優良農地保全条例」が施行され、農地保有合理化事業の導入を行い、長尾地区、白浜中央地区、南房総白浜地区で利用権設定がされ、平成7年11月から、長尾地区の優良農地を対象にこの農地保有合理化事業が始まりました。その後(有)ワタミファームが現地視察を行った後、白浜地区の気候や農地条件が高く評価され、平成17年3月よりが借受が開始されました。

本地区の農地保有合理化面積は、

南房総市全体借受面積(白浜中央、長尾、南房総白浜)

211,631 m<sup>2</sup>(平成21年10月1日現在)

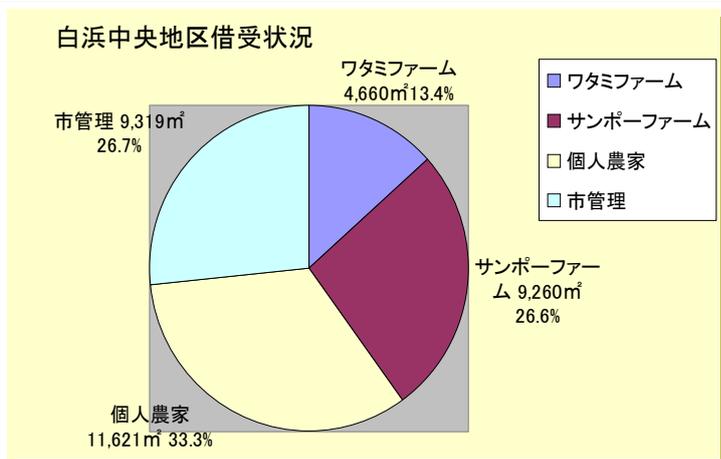
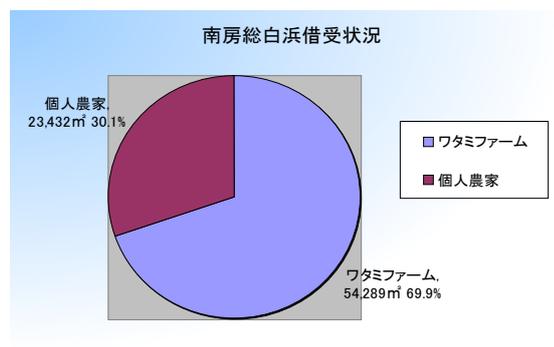
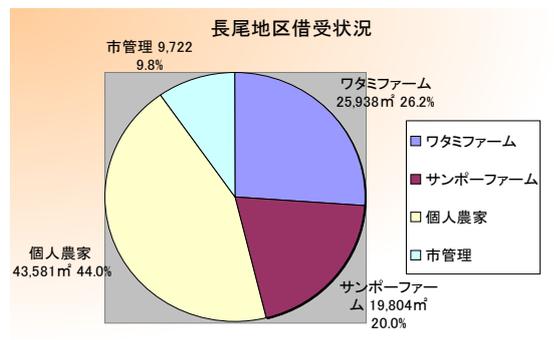
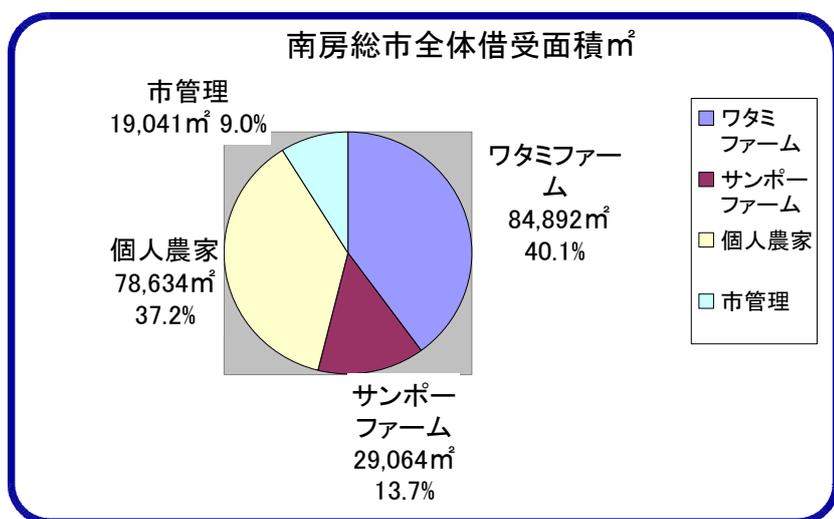
白浜中央地区 整地面積	45.3 ha	
地主よりの借受面積	42筆 34,865 m <sup>2</sup>	地区内の7.6%
担い手への貸付面積	23筆 25,546 m <sup>2</sup>	

うち、(有)ワタミファーム(農業生産法人)へ	4筆	4,665 m <sup>2</sup>
(有)サンポーファーム(農業生産法人)へ	9筆	9,260 m <sup>2</sup>
個人農家へ	10筆	11,621 m <sup>2</sup>

# 南房総市白浜地域の借受状況

農地保有合理化事業 農地保有合理化法人 南房総市						平成21年度10月1日現在	
	地区整地面積 (ha)	市が地主から借りている面積 (㎡)		市から借りている面積 (㎡)	借受面積割合		主な作物
		市が地主から借りている面積 (㎡)	地主→市		整地面積対しての割合	地区借受面積に 対しての割合	
南房総市							
全体借受面積 (㎡)		317筆	211,631				
白浜中央地区	45.3						
地区借地面積 (㎡)				34,865	7.7%	100.0%	
担い手				2,554	5.6%	73.3%	
ワタミファーム				4,660	1.0%	13.4%	有機JAS無農薬レタスほか
サンポーファーム				9,260	2.0%	26.6%	レタス, キャベツほか
個人農家				11,621	2.6%	33.3%	
市管理				9,319	2.1%	26.7%	
長尾地区							
地区借地面積 (㎡)	35.0			99,045	28.3%	100.0%	
担い手				89,323	25.5%	90.2%	
ワタミファーム				25,938	7.4%	26.2%	
サンポーファーム				19,804	5.7%	20.0%	
個人農家				43,581	12.4%	44.0%	
市管理				9,722	2.8%	9.8%	
南房総白浜地区							
地区借地面積 (㎡)	14.7			77,721	52.9%	100.0%	
ワタミファーム				54,289	36.9%	69.9%	
個人農家				23,432	16.0%	30.1%	

南房総市資料より



### (3) 参入している企業について

#### ア、有限会社ワタミファーム（農業生産法人）

ワタミファームは、有機JAS認証を取得し、有機野菜を中心とする「安全で安心なおいしい野菜」を600のグループ店舗（居酒屋）に供給しています。

白浜中央地区内の借入面積は、市より約0.5haを借入し、植付時期や収穫時には、地域より年間延べ人数400人程を雇用しています。

白浜地域（白浜中央、長尾、南房総白浜）における主な出荷実績は、サニーレタス21t、グリーンリーフ19t、大根10t、玉レタス4tを出荷し、ハウス栽培では1年間4～5回作付けされ、露地物では1～2回の作付けとなっています。冬季温暖な地区内では、冬季に玉レタスや夏季はなす等が作付けされています。



有機JAS認定ほ場

なす 7月撮影



露地レタス 1月撮影



ハウス栽培

5月撮影

イ、有限会社サンポーファーム（農業生産法人）

サンポーファームは、館山南房総自社農場（館山市、南房総市）及び契約農場を持ち、肥料設計から生産・出荷までの管理、商品開発を行い、自社農場及び契約農場からの野菜を、自社食品加工会社で加工・販売するほかファストフード、焼き肉店などへ直接供給しています。

作付面積は、現在館山市神戸<sup>かんべ</sup>地域で8ha、白浜地域で12ha作付けしているほか、積極的に会社独自で耕作放棄地の借入も行っています。将来的には安房地域で100haの経営面積の確保を計画しています。

白浜中央地区内の借入面積は、市からの借入は約0.9ha、個人からの借入は3.6haで合計4.5haとなっています。

また、雇用の面からも地域に貢献しており、年間延べ2700人程の採用をしております。

主な作付け品目は、冬・春どりレタス、冬どりキャベツ、トウモロコシ等となっています。



レタスの定植

10月撮影



キャベツの収穫

12月撮影



レタスの荷姿

2月撮影



6月収穫のとうもろこしの定植準備

2月撮影

#### (4) 地元農業者による営農活動

ア、企業だけでなく地元農家においても温暖な気候を活かして、年間を通じ花や野菜が盛んに栽培されています。また、夏場には現役の海女・海士もおります。



食用ナバナの収穫

1月撮影



キンセンカの栽培ほ場

1月撮影



キンセンカの収穫

2月撮影



はなあわ  
花栗（生花用）落花生

7月撮影



若い後継者によるハウス栽培

のパパイヤ、マンゴー 7月撮影



ストック

2月撮影



農家経営 観光切り花園 1月撮影

イ、地区内の花や野菜の出荷状況



花 J A安房白浜支店倉庫 2月撮影



そら豆 J A安房白浜支店倉庫 4月撮影

ウ、地区内で行なわれている活動



白浜小学校の体験授業

10月撮影



生徒たちの植えた花 2月撮影

(ア) 新規参入者・後継者の育成

本地区も後継者不足が大きな問題となっています。地元の有限会社浜太郎（農業生産法人）、白浜地域づくり協議会の主催による、農業後継者や、都市住民で田舎暮らしを考えている方や、農業に興味のある方を対象に、白浜活性化施設「花の情報館」や、白浜中央地区内の栽培ほ場を利用して農業体験実習を行ない「南房総市で農業を行なって生活しませんか？」と地域への定着を呼びかけています。

今年は、「農業体験（そら豆&金盞花）と白浜の魅力を発見！！」を実施し、肥料の役割や農薬の基礎知識などの講義、作物の栽培、収穫、出荷などの現地作業まで学んでいます。

白浜活性化施設

講師は安房農林振興センター改良普及課職員



キンセンカの定植作業



キンセンカの  
苗取り作業



(イ) 白浜中央地区隣接の直売所

構造改善事業を契機に結成された「白浜町名倉花つみ園組合」は平成7年度構造改善事業により直売施設を整備し、切花や海産物などの地域特産物を直売するとともに、花摘みやそら豆摘みとり体験を行なっています。



2月撮影



観光農園そら豆の摘みとり

4月撮影

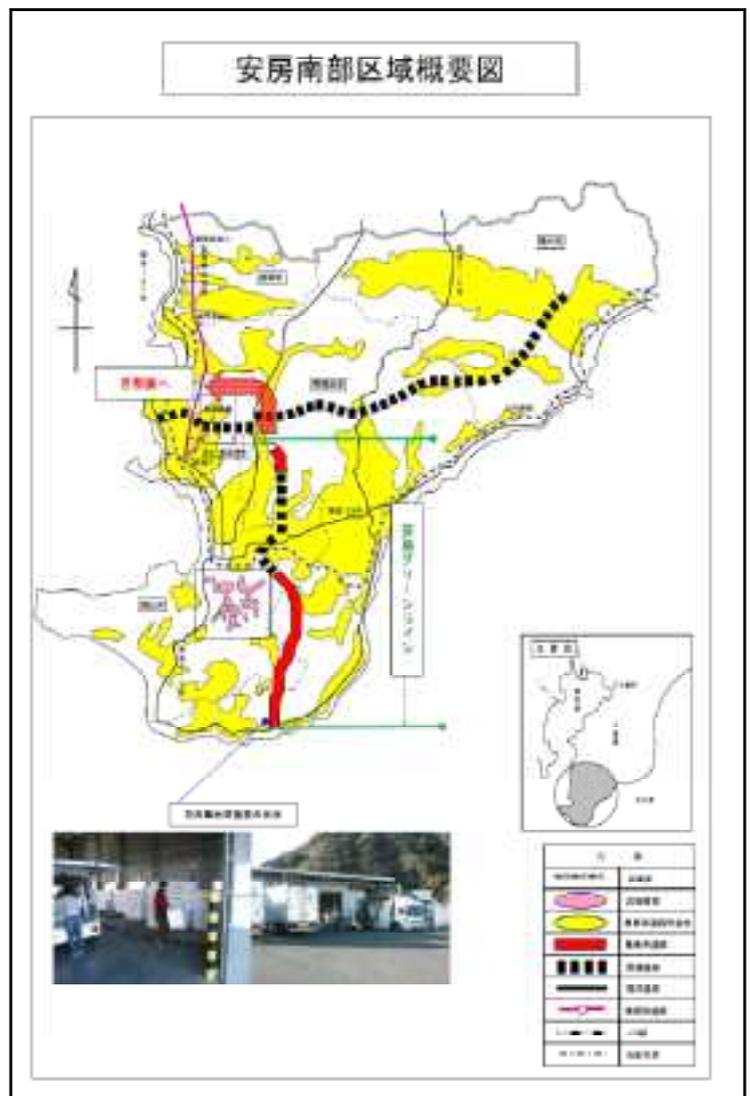
#### 4 白浜中央地区から首都圏へつながる基幹農道が完成

地域の活性化を担う「安房グリーンライン」が平成22年4月開通

安房南部区域農用地総合整備事業（独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター）により館山市九重から南房総市白浜町までの全長17kmの基幹農道が整備されました。

基幹農道により、南房総の最南端から都市近郊への道路網が整備され農産物の物流の効率化はもとより漁業、観光などの地域全般にわたる活性化が期待されます。

安房白浜トンネル



## 5 今後の課題と改善方法

県内でもっとも温暖な気候に恵まれた地域であり、農地の基盤も整備され、平成22年4月から農業用道路「安房グリーンライン」の供用が開始され、都市への輸送時間も短縮され、効率の良い農業が期待できます。

しかし、参入企業による野菜作りは増加傾向で今後も経営面積拡大の希望はあるものの、地元農業者の高齢化や後継者のいない農家が多くなっていることから、特産品である花や野菜の栽培は年々減少の傾向にあり、地区の大きな課題となっています。

これらを解消し、整備された農地を有効利用するためには、後継者や新規就農者の育成指導を行うことや、白浜地域特有の温暖な気候を生かした作物の産地化や、短縮された輸送時間を活かし、新たな流通経路を考えることや、地元観光施設や店舗等への直接販売ができる仕組みの構築、現在行なわれている農地有合理化事業などをきっかけに、さらに企業や大規模農家の参入しやすい環境を作ることなどを推進していく必要があります。

## 6 その他

### (1) 調査協力機関

- ア 有限会社ワタミファーム（農業生産法人）白浜農場
- イ 有限会社サンポーファーム（農業生産法人）
- ウ 有限会社浜太郎（農業生産法人）
- エ 南房総市農林水産課
- オ 南房総市白浜中央土地改良区

### (2) 参考図書等

- ア 千葉県農林水産業の動向（平成21年度版）

## 参考 白浜中央地区におけるおもな花、野菜

キンセンカ           ・・・日本一の生産高  
キンギョソウ       ・・・日本一の生産高  
ストック  
ポピー  
菜の花  
そらまめ  
枝豆  
食用ナバナ  
落花生

